

分類などの問題は、一度やっておけばとても楽です。まして何回も何回も練習していたら、すぐにできるようになるでしょう。ところが初めてぶつかった子どもは非常に苦労します。そこで大きな差が出てくるわけです。もしテストするならば、こういう弊害がないような新たな問題をつくるのが望ましいと思いますが、でも、なかなかどこの学校でもできるところではないかも知れません。

テストというのはすべてを見ることはできないのです。十の問題で千の能力をチェックするのは無理なのです。実際の知識は千や二千ではないですから、それをわずかばかりのテストをすると、たまたま自分の知っている問題が数多く出題された子と、そうでない子が出てきます。

極端なことを言えば、サイコロを振って一を10回出すこともあるわけなのです。そういうことから考えると、本当は知識がなくても100点が取れて、非常に知識が豊富で智慧のある人間が0点を取るという可能性だってあるわけです。

そんなテストによって選抜された子だけがよくて、できなかった子どもは排除されたなどと思ったら大間違いなのです。

いい学校へ入ったために伸びる子どもと、反対にいじけてダメになる

子どもがあるということも、親はよく認識しておかなければなりません。いい学校へ入れれば安心だというような単純な考えで、子どもを自分の思うように動かそうとすることは非常に危険です。